

通し番号	4380
------	------

分類番号	20-9C-33-01
------	-------------

(成果情報名) 市民活動と連携したアマモ種苗生産技術とアマモ場造成技術の開発
[要約] 水産技術センターは、市民参加型のアマモ種苗の生産技術を確立し、平成18～20年度にアマモ種子58万粒、苗1万4千株を生産し、漁業者やNPOなど多様な主体が参加するアマモ場再生活動に供給することによって横浜市、横須賀市などの沿岸に10箇所、合計5,072㎡のアマモ場が造成され、これらイベント等への参加県民数も6,715名に達した。
(実施機関・部名) 神奈川県水産技術センター・栽培技術部 連絡先 046-882-2314

[背景・ねらい]

- ・アマモは内湾浅海域に生える種子植物で、海の水質、底質を浄化し、魚介類の産卵・保育場となるため、アマモ場の再生は内湾の環境と生態系の改善に大きく寄与する。
- ・アマモは、波静かな内湾の浅い砂泥域に分布し、苗移植や種子採集も子供にも簡単にできることから、一般県民に水域環境の改善に参加していただく素材として好適なものである。
- ・水産技術センターは、平成15年度からNPOとの協働によるアマモ場再生試験に着手し、平成17年度には、漁業者やNPOなど多様な主体がアマモ場再生に取り組むためのマニュアルを作成した。

[成果の内容・特徴]

- 1 本県沿岸域に分布するアマモ類を採集、分析して遺伝子レベルの類似・相違度を把握し、アマモの遺伝的多様性と地域固有性を確保するための基礎的知見を収集した。
- 2 水産技術センターは、市民参加型のアマモ種苗の生産技術を確立し、東京湾産のアマモの種苗を大量かつ安定的に供給できる唯一の機関となった。
- 3 当センターでは、平成18年度にアマモ種子28万粒、苗5千株、平成19年度に種子20万粒、苗5千株、そして、平成18年度には種子10万粒、苗4千株を生産し、漁業者やNPOなど多様な主体が参加するアマモ場再生活動に供給することによって横浜市、横須賀市、葉山町、東京都の沿岸に10箇所、合計5,072㎡のアマモ場が造成され、これらイベント等への参加県民数は6,715名に達した。

[成果の活用面・留意点]

神奈川の成果を全国に発信するとともに、全国でアマモ場再生に取り組む人々の連携と情報交換を図るために平成20年12月に初めて横浜で開催した「全国アマモサミット」は、今年度鳥取県へと引き継がれた。

[具体的データ]

表 1 年度別造成場所と造成面積 (㎡)

造成場所		H18	H19	H20	合計
横浜市神奈川区	子安地先		63,30		93
横浜市神奈川区	滝の川		2		2
横浜市神奈川区	橋本町		16	92	108
横浜市西区	みなとみらい		40,15		55
横浜市中区	汽車道			100	100
横浜市金沢区	ベイサイドマリーナ	200	60	120	380
横浜市金沢区	海の公園	1,750	1,600	350	4731
横浜市金沢区	野島海岸		285	100	2074
横須賀市	追浜(浦郷町)地先	30	32,10	32	124
三浦郡葉山町	森戸神社地先	数㎡	20,40	60	120
東京都大田区	大森ふるさとの海辺公園			25	25
計		1,980	2,213	879	5,072

表 2 アマモ種苗生産実績と県民参加の状況

	アマモ種子生産数	アマモ苗生産数	県民参加者数
平成 18 年度	280,000 粒	5,000 株	1,645 名
平成 19 年度	200,000 粒	5,000 株	2,404 名
平成 20 年度	100,000 粒	4,000 株	2,666 名
合計	580,000 粒	14,000 株	6,715 名



アマモ場再生活動の様子 (花枝採集)

- [資料名] 職員提案事業制度 点検結果書
 全国アマモサミット 2008 要旨集
- [研究課題名] アマモによる海の環境改善事業
- [研究期間] 平成 18~20 年度
- [研究者担当名] 工藤孝浩